水辺空間活用（舟運）ワーキング　第２回　議事要旨

１．日時・場所

平成 27 年 12 月 21 日（月）　15:00～16：30

東京都庁第二本庁舎 31 階特別会議室 27

２．委員一覧

別紙　名簿のとおり

３．議題

（１）調査運航の実施結果報告

（２）課題と施策展開の方向性について

（３）来年度の社会実験について

４．主な発言要旨

〔清水教授（主査）〕

・　社会実験の実施にあたっては、何を検証するのかという目的をきちんと決める必要がある。長期的にどう使われたいかという目標を設定し、そのためには１年目には何をするべきかと考え、今の法制度や施設、船舶の制約がある中で何ができるかを検討するのがよい。

・　その際、船を日常利用の水上交通として使うのか、それとも付加価値を高めた利用を目標にするのかも考えるべき。また、事業として成り立つサービスとコストとの関係も検討しなければならない。

・　航路を決める際も、航路の「軸」と「枝線」の整理も必要。例えば羽田と結ぶという場合には船の速さが必要だが、船のゴージャスさは不要だと思う。逆に「軸」と「枝線」とを組み合わせた場合には、高い付加価値のサービスも可能だが、大きな船ではできないという現実的な問題もある。

〔篠原准教授〕

・　アンケート結果では 90 分程度の運航で 1500 円～2000 円位が適切という意見があったが、継続的に事業者が運航を続けて行くためには、4000 円以上に持って行く必要があると感じている。

・　テーマを決めて例えば落語家が乗ってガイドしたり、若者向けの音楽などで船を楽しんだりといった、船内で楽しめエンターテインメントや途中での観光スポットや下船が可能なエリアに何か面白いコンテンツがあるなどの付加価値をつけることで、新しい舟運の魅せ方になるのではないか。

・　観光庁の進めている DMO（Destination Management Organization）という考え方を参考にして、観光と船をどう結びつけていくかを検討し、地域で歓迎して受け入れられるような仕組み作りを検討して頂きたい。

・　途中下船していただき共通券で乗り継いでいくとか、そこで滞留時間を長くして経済波及効果を狙うなどの仕組みを考えれば、地域も何かやろうということに繋がる。

〔中央区〕

・ 舟運を成功させるためには、降りた船着場と観光との連携が重要と考えている。例えば、朝潮運河は、降りてから晴海通りで直ぐ銀座なので、そうした魅力も含めてＰＲしていけるのではないか。

〔台東区〕

・ 船で羽田と浅草をつなぐと、2 時間以上かかるので、長いと思っていたがアンケート結果では満足度も高いので、今後の展開を非常に期待している。
・ モノレールと近い船着場を利用して、長く乗りたい人は羽田から直行するが、時間のない人はモノレールと船を乗り継ぐという接続利用もあって良いと思う。

〔墨田区〕

・ 舟運の活性化をさせるためには事業者の利益がなければ長続きしない。事業者の代表の方々へのヒアリングも必要であると思う。

〔大田区〕

・ 長時間の運航は難しいというアンケート意見があったが、途中下船できるようにすすることで、長時間・短時間・乗換などの選択ができるのではないか。検討の参考にして頂きたい。

〔品川区〕

・ 品川区では来年度区内の社会実験を考えているので、できれば都の社会実験と連携していきたいと考えている。

〔建設局〕

・ 今回の調査運航を踏まえると、A～E のコースはいずれも非常に満足度が高く、その結果を踏まえ、来年度の社会実験でも同様のコースを運航するのがよいと思う。

〔港湾局〕

・ 社会実験では、軸となる航路を決めて進めるのがよいと思う。そこで、集客能力などを踏まえながら枝線等の拡充を検討していればよいのではないか。
・ 羽田空港を利用してくる人が船を利用する際には、長旅で疲れているので、まずはホテルへ行きたいという意見があったし、大きな荷物をどうするかという問題や、悪天候で船が欠航する際の代替手段なども別途検討する必要があると思う。

〔東京湾遊漁船業協同組合〕

・ 事業者としては、船は移動手段なのか観光も含めるのかという目的ごとに利用する船舶も異なる。

・ 当組合では、羽田を使った修学旅行生の受け入れも行っているが、船のトラブルや天候により、遅延で飛行機の時間に間に合わない場合などのリスクを考慮し、羽田空港行きの運航は行っていない。

〔事務局〕

・ 水辺に顔を向けた街づくりという面では完成までに時間がかかるので、腰を据えてやっていく必要がある。
・ 社会実験においては、区の取組とは是非連携していきたい。舟運だけに着目することなく観光施策やまちづくり施策とかがあればどんどん連携させて頂いて厚みの社会実験になっていけばといいと考える。
・ 舟運活性化は船を降りた後の楽しみと他の交通機関との結節が重要である。さらに船着場自体も目的化するような取組が必要であり、施策展開の方向性に示すような、まちなかと船着場の結節性を高めるサインや船着場の賑わい創出なども考えていきたい。

以上

水辺空間活用（舟運）ワーキンググループ（第2回）参加者名簿

	役　職　名	委員名	備 考
主　査	首都大学東京大学院都市環境科学研究科教授	清水　哲夫	
専門ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ	跡見学園女子大学観光コミュニティ学部観光デザイン学科准教授	篠原　靖	
委　員	東京都政策企画局調整部技術政策担当課長	小原　誠司	
委　員	東京都政策企画局計画部計画担当課長	池田　庸	
委　員	東京都都市整備局都市基盤部交通政策担当課長	末元　清	
委　員	東京都都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長	井川　武史	
委　員	東京都産業労働局観光部振興課長	若林　和彦	代理
委　員	東京都建設局河川部指導調整課長	城田　峰生	
委　員	東京都建設局河川部低地対策専門課長	岡上　樹	
委　員	東京都港湾局港湾経営部監理担当課長	吉田　憲治	
委　員	東京都港湾局港湾整備部環境対策担当課長	儀間　潔	代理
委　員	千代田区環境まちづくり部　麹町地域まちづくり課長	金子　修	
委　員	中央区区民部　商工観光課長	田中　智彦	欠席
委　員	中央区環境土木部　水とみどりの課長	溝口　薫	
委　員	港区街づくり支援部　交通対策担当課長	西川　克介	欠席
委　員	港区芝浦港南地区総合支所　まちづくり担当課長	村上　利雄	
委　員	港区産業・地域振興支援部　観光政策担当課長	重富　敦	欠席
委　員	台東区都市づくり部　都市計画課長	望月　昇	
委　員	墨田区都市整備部　都市整備課長	齋藤　雄吉	
委　員	墨田区産業観光部　観光課長	金子　明	
委　員	江東区都市整備部　まちづくり推進課長	天野　清和	
委　員	一般社団法人　江東区観光協会　事務局長	青柳　幸恵	
委　員	品川区防災まちづくり部　河川下水道課長	和田　淳	
委　員	大田区まちづくり推進部　空港臨海部調整担当課長	浦瀬　弘行	
委　員	江戸川区土木部　水とみどりの課長	多賀　美代	代理
委　員	日本旅行業協会　関東事務局事務局長	鈴木伸一	欠席
委　員	関東旅客船協会　事務局長	西牧秀夫	
委　員	屋形船東京都協同組合　理事長	佐藤　勉	
委　員	東京湾遊漁船業協同組合　理事長	飯島　正宏	
委　員	東京観光遊漁船協議会　会長	島田　誠一	